

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 3 3	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Beverage-specific effects of ethanol consumption on its biological markers. 飲酒量が生物学的マーカーに及ぼす影響の酒種別検討	
執筆者	
Sakutata H, Suzuki T, Yasuda H, Ito T.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Clin Chem Lab Med. 2008;46(5):699-702.	
キーワード	
酒種別、大量飲酒、検診、MCV、GTP	
要 旨	
<p>目的： 血清・GTP と平均赤血球容積(MCV)は大量飲酒のマーカーとして知られている。</p> <p>方法： 退職時検診を受けた日本人中年男性 974 人を対象として、酒種別の飲酒量が・GTP 値およびMCV に及ぼす影響を横断研究にて検討した。</p> <p>結果： 蒸留酒も発酵酒も飲酒量と対数変換・GTP 値とが正に相関していた [標準化係数(beta)はそれぞれ 0.261 と 0.174]。・GTP 値 70 IU/L 以上の高値者頻度は発酵酒に比べて蒸留酒大量飲酒者に多かった (38.8%と 27.6%、<math>p = 0.013</math>)。MCV 値は蒸留酒飲酒量と有意に正相関したが(beta: 0.212、<math>p &lt; 0.0001</math>)、発酵酒飲酒量とは相関しなかった(beta: 0.043、有意性なし)。MCV 97 fL 以上の頻度は発酵酒大量飲酒者に比べて蒸留酒大量飲酒者において高かった (35.3% と 16.8%、<math>p &lt; 0.001</math>)。</p> <p>結論： 外見上健康な中年男性において大量飲酒者を見つけ際、MCV は蒸留酒飲酒者に比べて発酵酒においてその感受性が低いことが判明した。</p>	